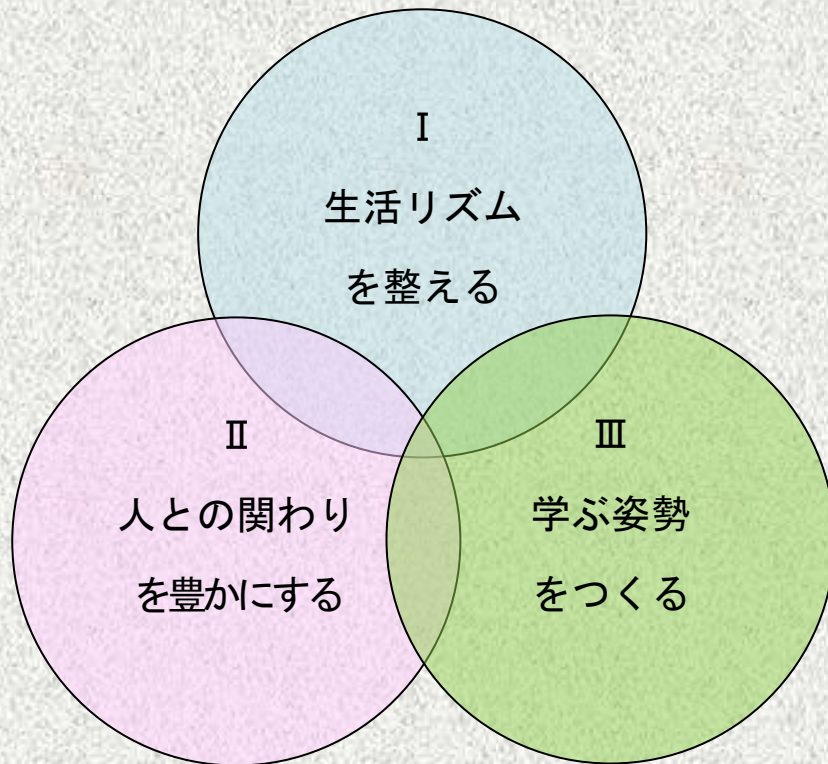


三鷹「学び」のスタンダード(家庭版)

変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちには、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら解決していく力が求められます。そのためには、確かな学力と、自立した一人の人間として力強く生きる「人間力」、社会の一員として適切な人間関係を結びながら生きる「社会力」を身に付けていく必要があります。家庭教育は、子どもたちのこうした人間形成に大きな影響を与えます。学力調査の結果からも、学校教育はもとより、家庭での「学び」のあり方が学力に関係していることが明らかになりました。

この「三鷹『学び』のスタンダード」は、家庭教育の充実に向けた一つの指針として示すものです。家庭や地域で、子どもたちの生きる力を育む取組みを考えるためにご活用ください。

学びの基盤をつくる3つの視点



平成26年3月

三鷹市教育委員会

家庭でできる8つの実践

I 生活リズムを整える

決まった時間に
就寝・起床させましょう

- 成長期の子どもたちが心身を健やかに保ち、落ち着いて勉強に取り組むためには生活リズムを整えることが大切です。



学力調査から

就寝や起床の時刻が不安定な子どもたちは、学力調査の正答率が低いことがわかりました。特に中学生で起床時刻が全く一定していない子どもは、18ポイント近く正答率が低くなっています。

毎日朝食をとる習慣をつけましょう

- 心身を整え、学校で集中して午前中の授業に臨むためにも、朝食は大切です。



学力調査から

小学生、中学生とも、朝食を毎日食べる子どもたちほど正答率が高くなる傾向があります。

II 人との関わりを豊かにする

毎日きちんと
あいさつを交わしましょう

- 家庭や学校、地域の中に良好な人間関係があることは、子どもたちの心の安定につながります。あいさつはコミュニケーションのスタートであるとともに、人との信頼関係を築く第一歩です。

会話を大切にしましょう

- その日の出来事を聞いたり、困った時に相談に乗ったりするなど、子どもの話に熱心に耳を傾ける保護者の存在は、子どもたちに安心感を与えます。
- また、年齢とともに子どもに判断させる機会を少しずつ増やしたり、将来のことを話題にしたりするなど、子どもの成長に応じた会話を大切にしましょう。



学力調査から

「保護者が自分を信じてある程度任せてくれている」「困ったときには相談に乗ってくれる」と感じている子どもたちの割合が成績上位層では14%多いことがわかりました。また、95%の子どもたちが将来のことを考えるのは大事だと思っていますが、具体的に考えている子どもたちの割合は成績上位層と下位層で12%の差があります。

III 学ぶ姿勢をつくる

学習時間を確保しましょう (学年×10～15分)

※ 中学校は7・8・9 学年として計算します

- 学校版「三鷹『学び』のスタンダード」では学校に子どもたちの家庭学習のやり方を指導したり、宿題の内容を充実させたりすることを求めています。家庭では、毎日決まった時間から学習を始めるなど、家庭学習が習慣として定着するようにサポートしましょう。



学力調査から

自分で計画を立てて家庭学習をしている子どもたちは、一日の学習時間が長いほど正答率が高くなる傾向があります。

学校で使ったプリントやテストを 活用しましょう

- 学校で習ったことを復習する際に、授業で使ったプリント類やテスト問題をやり直すなど、あらためて活用することはとても効果的です。また、保護者も授業の内容やテストの結果を確認するなど、子どもの学習状況に関心をもつことが大切です。



学力調査から

成績上位層の子どもたちは、学校でもらったプリントや資料を自分なりに整理している子が約13%多いことが分かりました。また、テストで間違えた問題をやり直すなど、復習をしている子どもたちほど正答率が高くなる傾向があります。

本に親しむ習慣をつけましょう

- 「読んで理解する力」は学力の基礎です。保護者が読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読んだり、家族で図書館に出かけたりするなど、本に親しむ環境をつくりましょう。



学力調査から

読書好きの子どもたちの正答率は、国語で20ポイント、算数・数学で15ポイント高くなっています。部活動や塾・習い事などで忙しい中学生でも、1日30～60分程度の読書をしている子どもたちの正答率が最も高くなっています。 ※ 教科書・参考書・漫画・雑誌を除きます。

携帯電話、ゲーム、テレビの 利用ルールを決めましょう

- これらの過度の利用は家庭学習の妨げになるだけでなく、生活の乱れやトラブルの原因につながることもあります。買い与える場合は子どもの発達段階を慎重に見きわめて十分に検討しましょう。また、利用する時間(帯)や場所、内容などについて家庭のルールを決め、購入後もきちんと利用できるように継続的に見守りましょう。



学力調査から

成績下位層の子どもたちの30%近くが1日2時間以上ゲームをやっていますが、上位層の子どもたちの80%以上は1時間以下です。テレビを見る時間も上位層の子どもたちの40%以上は1日90分未満です。また、上位層の子どもたちの60%以上は携帯電話等を持っていないか、持っていても30分未満の利用時間です。

三鷹「学び」のスタンダード(家庭版)実践シート

すでに取り組んでいること、これから取り組みたいこと、特に重視したいことなどをチェックし、具体的な取り組み方について考えてみましょう。

| 3つの視点 | 8つの実践 | チェック | 実践内容 |
|-----------------|--|------|------|
| I 生活リズムを整える | 1 決まった時間に就寝・起床させましょう | | |
| | 2 毎日朝食をとる習慣をつけましょう | | |
| II 人との関わりを豊かにする | 1 毎日きちんとあいさつを交わしましょう | | |
| | 2 会話を大切にしましょう | | |
| III 学ぶ姿勢をつくる | 1 学習時間を確保しましょう (学年×10~15分) ※ 中学校は7・8・9学年として計算します | | |
| | 2 学校で使ったプリントやテストを活用しましょう | | |
| | 3 本に親しむ習慣をつけましょう | | |
| | 4 携帯電話、ゲーム、テレビの利用ルールを決めましょう | | |

ご家庭での実践のために

- 幼児期から小学校にかけては、保護者主導で子どもたちに習慣づけましょう。
- 小学校から中学校にかけては、そのことがなぜ大切なのかを話し合って意義を理解させ、自ら進んで実践しようとする意識を育てていきましょう。
- 家庭での実践について考えることを通して、家庭での会話・コミュニケーションを大切にしていきましょう。

子どもの成長に合わせて、親子で一緒に取り組んでいくことが大切です。

